

平成 29 年度全国学力・学習状況調査の結果について

【全体概要】

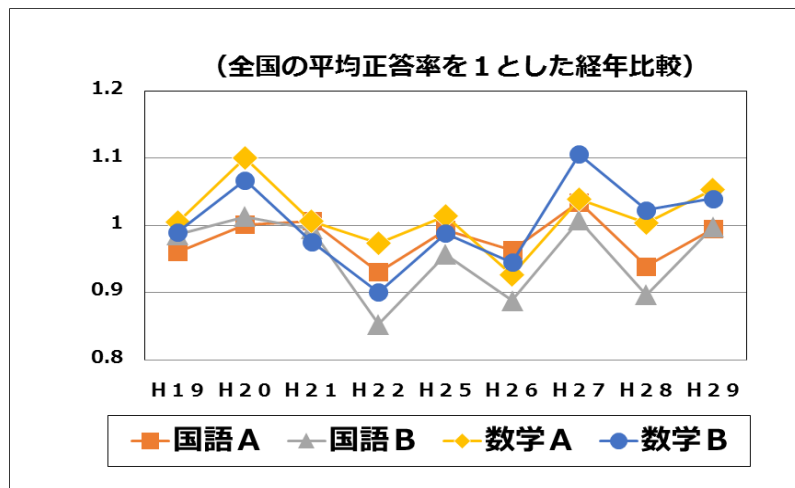
枚方市立招提北中学校

文部科学省が今年 4 月に実施した、平成 29 年度全国学力・学習状況調査の結果について、保護者の皆様に本校の全体概要についてお知らせいたします。結果によりますと、児童（生徒）の生活習慣と学力には相関関係があることから、今年度は全国を基準とした経年推移によって、本校の学力や学習の状況及び生徒質問紙から見えてきたことについてお知らせするものです。引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

※教科や出題範囲が限定されており、本調査により測定できるのは「学力」の特定の一部であることをご理解ください。

学力調査の結果（概要）

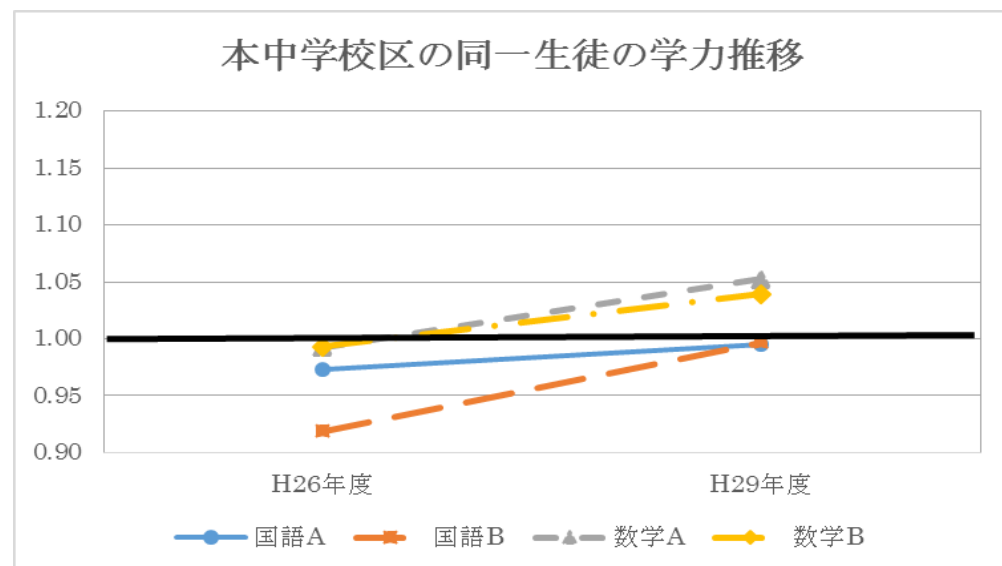
学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較（対全国比）をお知らせします。



国語 A	0.99
国語 B	1.00
数学 A	1.05
数学 B	1.04

また、本校生徒の同一生徒の学力推移（対全国比）をお知らせします。

※本校では一小一中でほとんどの生徒が船橋小学校出身であるため、平成 26 年度の船橋小学校で調査したデータからの推移を表しています。



○国語 A について

本年度も全国平均と同程度の「基礎・基本」の学力は比較的身につけていると思われます。傾向として、選択肢の問題で正答率が高く、慣用句に関する設問では全国平均を大きく上回っていました。一方で、短答式の問題においては、正答率のかなり低いものもあり、日常で使用する語彙にかなりの偏りがある生徒が多いように思われます。また、漢字の書き取りの正答率が低いことが気になります。これはスマホ等の使用により、「だいたいそのような形の文字」というあいまいな理解の仕方でも日常生活上困らないため、「正確に書く」という習慣がついていないことが原因かと思われます。授業中の答え合わせの場面でも、形の似た字が書いてあれば、誤答でも平気で「正解」にしてしまう生徒が多く、このあいまいさが今後の課題といえます。内容に関しては、スピーチに関する問題で正答率が高いが、文学的な文章の読み取りに課題があり、特に非常に文学的な表現は理解できない生徒が多いように思われます。しかしながら、全体的に無回答率はかなり低く、真面目に問題に取り組む姿勢は身につけているようです。

○国語 B について

全国平均正答率とほぼ同じ結果であり、「活用」する力も全国平均程度はあったことがわかりました。「国語 A」でも見られたように、根本的にまず文学的な文章の読み取りができていないため、「活用」するに至らないことが多いことがわかりました。一方で、資料を利用する問題では、全国平均と比べても正答率が高い傾向にあり、これまで様々な資料を用いて説明させる取り組みを行ってきた成果が出たように思われます。全体的に、無解答率は低く、苦手とされる「記述式」の設問においても、普段の「書く」ことの指導の結果もあり、「書く」ことに前向きに取り組んでいることは評価できます。しかしながら、今後はポイントをおさえて「書く」ということの質を上げていく必要があります。

○数学 A について

全体の平均正答率については、全国平均を上回り、「基礎・基本」的な事項はしっかりと身につけてきていることがわかりました。特に図形の領域の平均正答率は、全国平均に比べ非常に高い。特にイメージのしにくい空間図形の問題での正答率が高く、図形のイメージしやすいように、具体物や ICT を有効に活用した授業の成果が出た結果であると思われます。一方で、関数の領域は、全国平均よりも高い結果ではありますがその差はわずかなもので、表やグラフから読み取り考える系統の問題に関する正答率が低い傾向が見られました。表やグラフが何を意味しているのかをまずはじっくりと考える時間を取り、より理解を深める必要があります。

○数学 B について

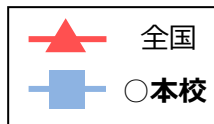
平均正答率は、全国平均を若干ではありますが上回っており、数学の「活用」力も全国平均並であることがわかりました。「数学 A」と同様に、図形の領域では他の領域よりも大きく全国平均正答率を上回っており、図形の性質や構造についてただ暗記・理解しているだけでなく、そのことを様々な場面に活用することができることがわかりました。設問の形式で比較したとき、正答率が全国平均より低いものが多く見られたのは「記述式」の問題でした。図形の合同の証明は、授業で何度も取り組んでいることもあり比較的正答率は高いものの、筋道を立てて説明する問題の正答率は低いのが気になります。特に「数学 A」でも見られた表やグラフの読み取りが絡んだ問題の正答率が非常に低く、読み取りが十分にできていないために、それを活用するに至らないという因果関係が明らかであり、表やグラフから必要な情報を読み取り、それを活用する力の育成をめざした機会を多く設定する必要があります。

※本調査は、平成 19 年度から実施されています。

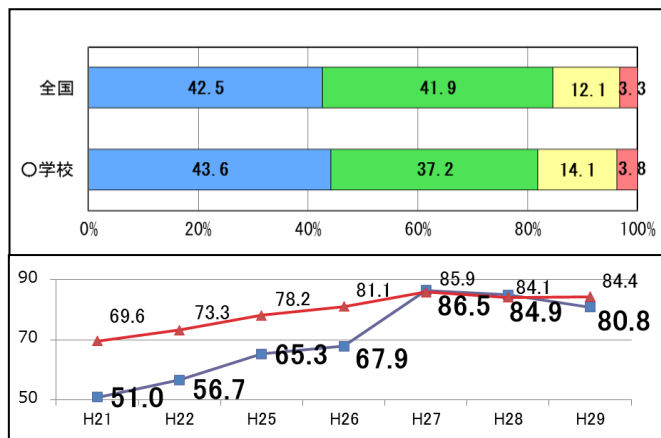
※平成 23 年度は中止(東日本大震災)、平成 24 年度は一部の学校を対象にした抽出調査のため、掲載していません。

質問紙調査の結果（概要）

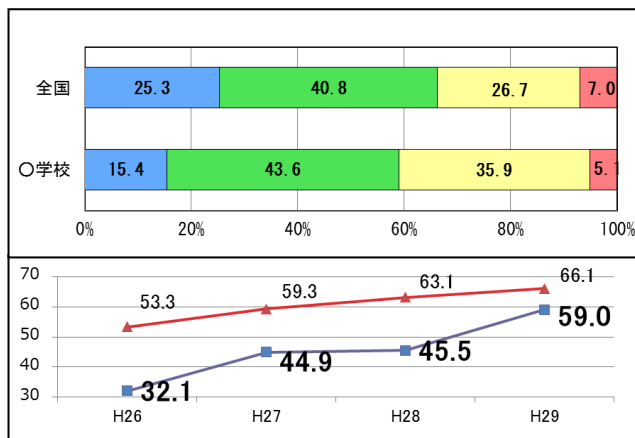
質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。



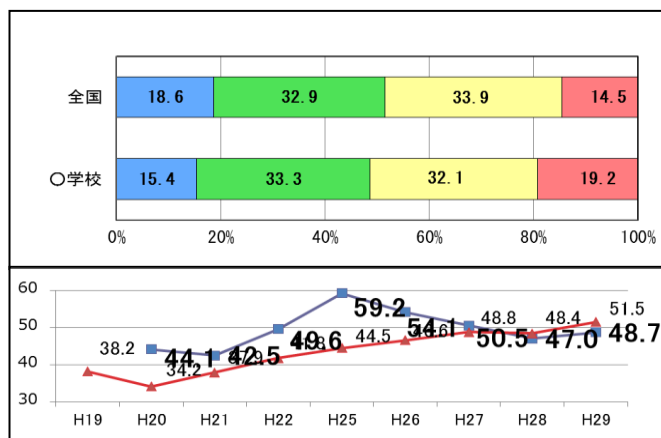
ふだんの授業では、自分の考えを発表する機会がよくある



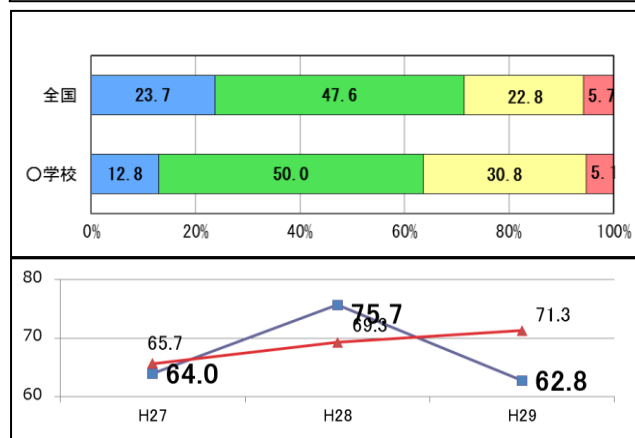
授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う



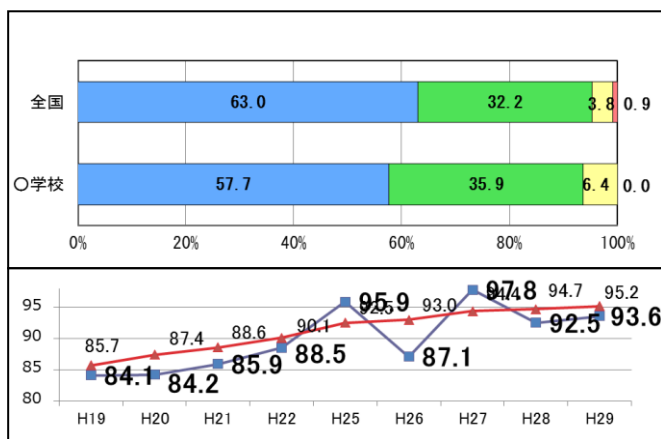
自分で計画を立てて勉強している



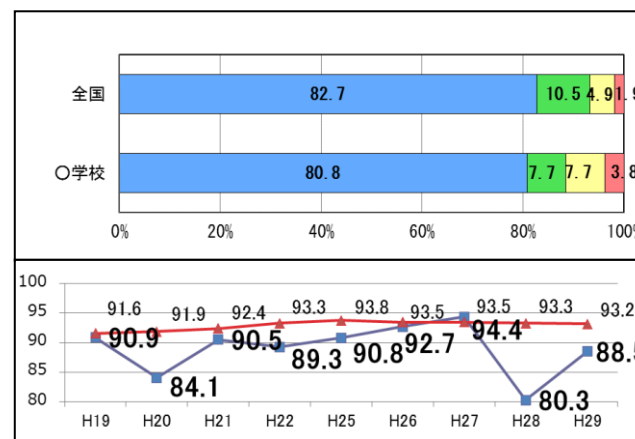
学級やグループの中で、自分たちで課題設定・情報収集・意見交流・整理・発表などの学習活動に取り組んでいたと思いますか



学校のきまり・規則を守っている



朝食を毎日食べている



< 質問紙調査結果の概要 >

○授業改善について

この数年、本校では「Hirakata 授業スタンダード」に基づいた授業改善を進めており、今年度は「招北中スタンダード」として、①「めあて」と「ふりかえり」を明確にすること、②「学び合い」を大切にするためにペア学習やグループ学習（班活動）などを適宜取り入れていくことなどを全教職員で共有し、実践してきた結果として、成果が徐々に現れてきていることがうかがえました。特に、どの授業でも「自分で考える」「学び合い」「発表の機会」「振り返りの充実」を多く設けてきたこともあり、その成果は顕著に表れています。

○家庭学習について

学校の宿題を家でする生徒も、自分で計画を立てて勉強している生徒も、ここ数年、全国平均に比べて少ないことが気になります。しかも宿題に関しては、ここ数年若干ながら下降傾向にあり、改めて家で学習に取り組む習慣の徹底が必要があると考えさせられました。また、計画性を持って家庭学習に取り組んでいる生徒は半数に満たないことから、家庭とも連携し、計画性のある学習習慣を定着させていく必要があると考えます。

また、ここ数年、普段の家での勉強を30分以上する生徒も全国平均に比べて少ない傾向が見られました。しかしながら、昨年度から始めた「自学自習プリント」や今年度初めに配った「学習のてびき」などの影響か、昨年以降、普段の家での勉強を30分以上する生徒は上昇傾向にあり、学校の取り組みの成果の一端であると考えられます。

○学習規律について

授業中においては、これまでに船橋小学校と一貫して取り組んできた学習規律の重点項目や、今年度配布した「学習のてびき」にある「学習の4つのきまり」を意識して授業に取り組んでいる生徒がほとんどであり、全体として落ち着いた状況で授業に取り組むことができます。また、これから求められる「主体的・対話的で深い学び」のある学習活動をめざして、本校ではグループ学習やペア学習での「学び合い」や「発表の機会」を多く取り入れてきたこともあり、積極的・主体的に学習に取り組む生徒が増え、「学びへの向き合い方」についても育成されていることがうかがえました。一方で前述したように、家庭での学習習慣に多くの課題が残されており、保護者の皆さまと協力しながら、家庭での生活習慣や学習習慣について考えていくことが必要だと思われます。

○生活習慣について

この3年間を通して、ある程度良い生活習慣が維持できていることがうかがえました。特に、「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣を大切にするを学校として強調し、呼びかけてきたこともあり、良い状態で維持しているように思われます。一方で、スマートフォンなどの携帯端末やインターネットゲームなどが生徒の身近なものとなり、その使用率及び使用時間がここ数年全国的に高まっている傾向が見られます。この傾向は本校生徒においても見られ、高い割合で伸び続けていることが家庭学習時間に影響していないかと憂慮しています。

< まとめ >

これまで本校で積極的に取り組んできた「授業改善」および「家庭学習の充実」「招北中『学び』のスタンダード」によって、少しずつではありますがその成果が現れてきているように思えます。特に、3年間での成長は、身体的成長だけでなく、学力（資質・能力）にも飛躍的な成長を見ることができました。今後も、本校生徒の現状を随時把握しながら、様々な教育活動を通して、学校一体となって、学力（資質・能力）の向上に向けて取り組んでいく必要があると考えています。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

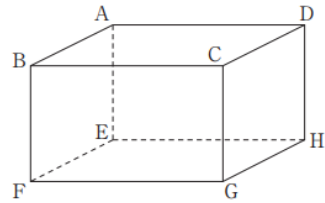
<数学A> (主に知識に関する問題)

成果や課題があった設問

【成果】

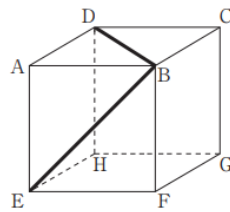
5 次の(1)から(4)までの各問いに答えなさい。

(1) 次の図の直方体には、辺CGに平行な面がいくつかあります。そのうちの直方体の面を1つ選んで書きなさい。



(3) 右の図は立方体の見取図です。

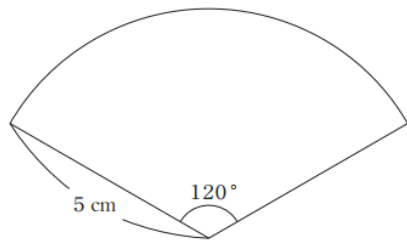
この立方体の面ABCD上の線分BDと面AEFB上の線分BEの長さを比べます。線分BDと線分BEの長さについて、下のアからエまでの中から正しいものを1つ選びなさい。



- ア 線分BDの方が長い。
- イ 線分BEの方が長い。
- ウ 線分BDと線分BEの長さは等しい。
- エ どちらが長いかは、問題の条件だけでは決まらない。

【課題】

(3) 半径が5 cm、中心角が120°のおうぎ形の弧の長さを求めなさい。ただし、円周率は π とします。



<数学B> (主に活用に関する問題)

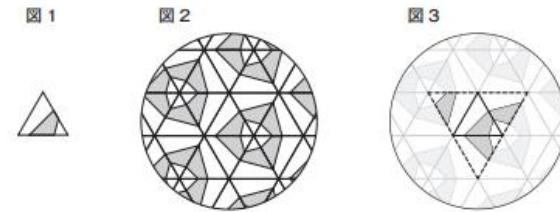
成果や課題があった設問

【成果】

1 万華鏡は次のような筒状のおもちゃで、中に3枚の鏡を組み合わせた正三角柱が入っています。鏡が内側に向いているので、中をのぞくと、正三角柱の底面にある模様が周りの鏡に映って、美しい模様が見えます。

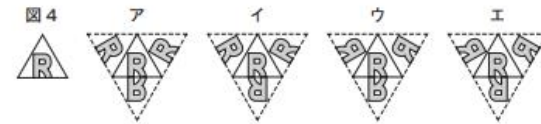


正三角柱の底面にある模様が図1である場合、図2のような模様が見えます。これは、隣り合う正三角形がすべて、共通する辺を軸に線対称になっているとみることができます。例えば、図3にある4枚の正三角形に着目すると、隣り合う正三角形は、共通する辺を軸に線対称になっていることがわかります。



次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

(1) 図3の真ん中にある正三角形が下の図4の模様である場合を考えます。このとき、点線で囲まれた正三角形の模様が、下のアからエまでの中にあります。それを1つ選びなさい。

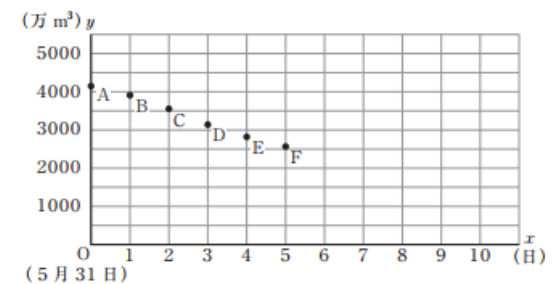


【課題】

3 康平さんは、ダムの貯水量が減ってきており、水不足の心配があることを新聞で知りました。そこで、新聞に載っていたダムについて、毎日の同時刻の貯水量を調べました。そして、5月31日からx日後のダムの貯水量をy万 m^3 として、次のように表にまとめ、下のグラフに表しました。

調べた結果

5月31日から経過した日数と貯水量						
経過した日数x(日)	0	1	2	3	4	5
貯水量y(万 m^3)	4140	3920	3540	3140	2820	2570



(2) 康平さんは、このダムの貯水量が1500万 m^3 より少なくなると水不足への対策がとられることを知り、それがいつになるのかを予測することにしました。

そこで、調べた結果のグラフにおいて、点Aから点Fまでの点が一直線上にあるとし、貯水量がそのまま一定の割合で減少すると仮定して考えることにしました。

このとき、貯水量が1500万 m^3 になるまでに5月31日から経過した日数を求める方法を説明しなさい。ただし、実際に日数を求める必要はありません。

5			
		本校	全国
(1)	正答率	70.3	67.0
	無解答率	4.1	2.9
(3)	正答率	90.5	80.2
	無解答率	0.0	0.6

(考察)

これまでは、空間図形などの幾何学の分野はイメージがしにくく、苦手としている生徒が多い傾向が見られましたが、今回の結果を見るかぎり高い正答率となりました。その理由として、これまでの授業の中で、図形や立体の具体物を見せたり、ICTを活用して、イメージを膨らませたりしてきた成果であるように思われます。

4			
		本校	全国
(3)	正答率	25.7	30.7
	無解答率	28.4	19.7

(考察)

正答率より無解答率の方が高いことが、大きな課題であることが浮き彫りになりました。おうぎ形の弧の長さおよび面積の求め方を、単に公式として覚えているだけで、「考え方」の理解が乏しく、公式を忘れてしまうことで、どのように求めていけばいいのかわからないため、無解答率が高くなったのであろうと思われる。改めて、公式だけでなく、その求め方の手順や意味を理解させていく必要があります。

1			
		本校	全国
(1)	正答率	76.0	67.5
	無解答率	0.0	0.2

(考察)

まず「選択式」の問題であることが正答率を大きく高めていることがわかりました。また、国語の漢字では大体のイメージでは書けなくても、このような模様では大体のイメージで考えることのできる問題については、消去法等を用いれば、考えやすいということも影響しているだろうと思われます。この問題の正答率からも、ICT等を活用してイメージを膨らませたりしてきた成果が出たのではないかと考えています。

3			
		本校	全国
(3)	正答率	25.7	30.7
	無解答率	28.4	19.7

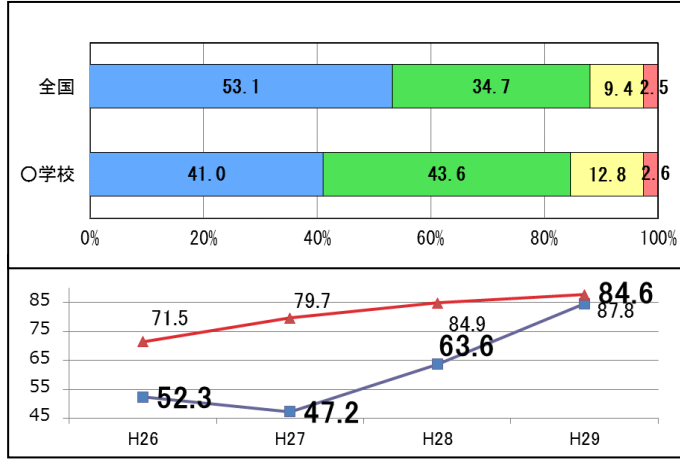
(考察)

まず「記述式」であることで無解答率が高いことは明らかです。また、「求める方法を説明しなさい」といった類の問いに慣れていないことも、正答率を低くしている大きな要因であると考えられます。やはり普段の授業の中で、単に「答え」だけでなく「考え方」や「求め方」をしっかり理解し、自分の言葉で説明する機会を多く設けていく必要があります。

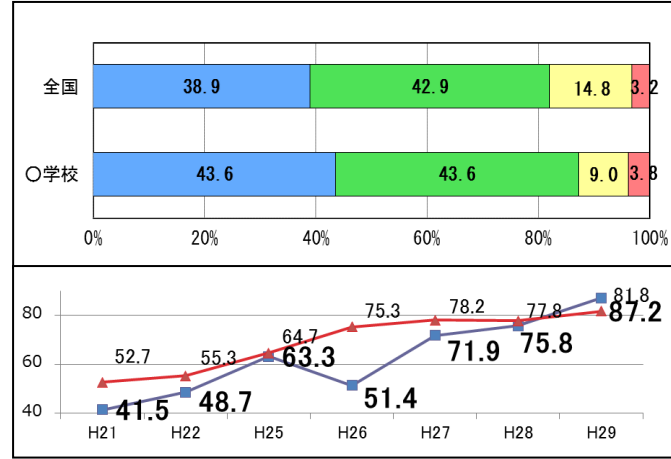
質問紙調査について（顕著な結果が見られた項目についての考察）

【成果のあった項目】

授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思う



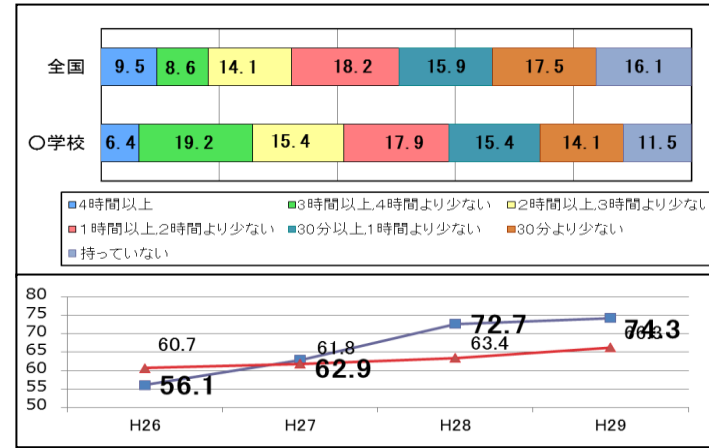
授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思う



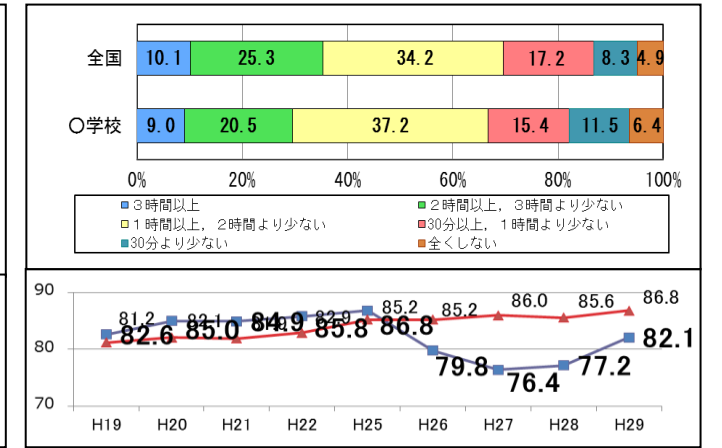
（考察）
今年度から全教室に「めあて」と「ふりかえり」のプレートを用意したこともあり、生徒にも「目標（めあて・ねらい）が示されていた」ことが一目でわかるようになったことが高い伸び率となっていると考えられます。また、ここ数年、どの授業でも、「学び合い」を取り入れていることが、結果として現れているだけでなく、授業の中の生徒の様子からも明らかにかがうことができるようになってきています。

【課題が残った項目】

普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか



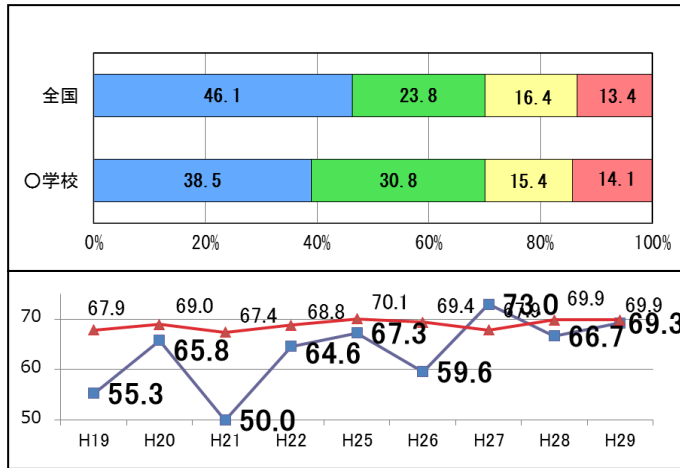
学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



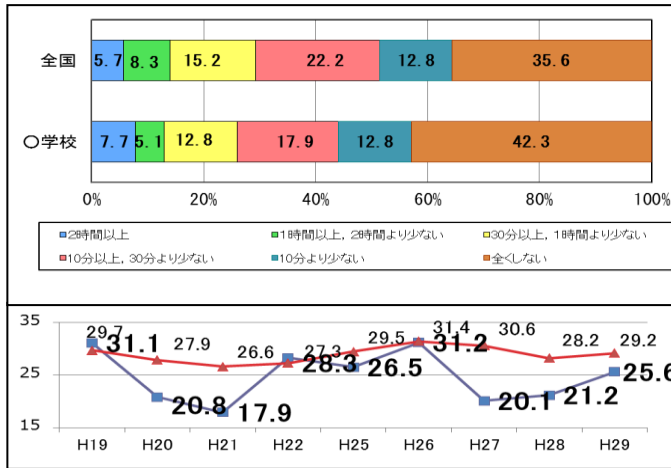
※折れ線は、どちらも30分以上の割合

（考察）
全国平均と比べて、30分以上携帯電話やスマートフォンを使っている生徒の割合は、ここ数年高くなってきており、それが家庭学習の時間にも影響を与えていると考えられ、相関関係が見て取れる結果となりました。本校でも、家庭学習を充実させるために、「自学自習プリント」をはじめ、様々な取り組みをおこなっていますが、やはり家庭学習を充実させるためにも、家庭と保護者の方にも家庭での携帯電話やスマートフォン等の使用についてのルールや制限について、考えていく必要があることが明らかとなりました。

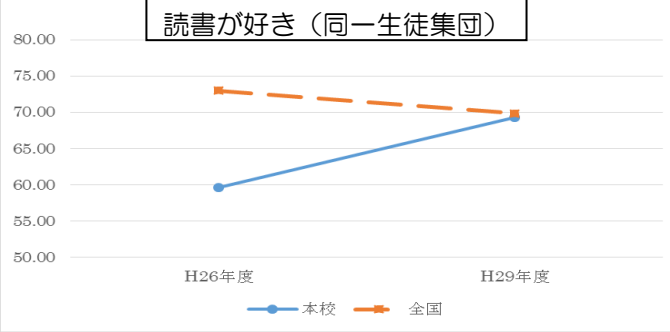
読書が好き（経年比較）



学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか

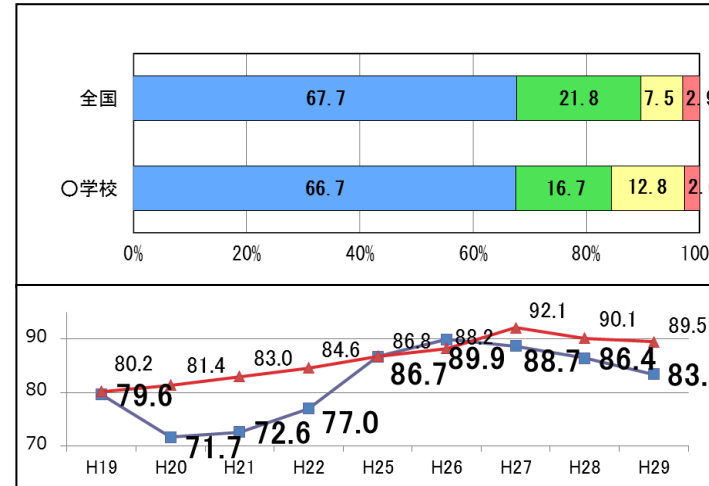


※折れ線は、30分以上読んでいる割合

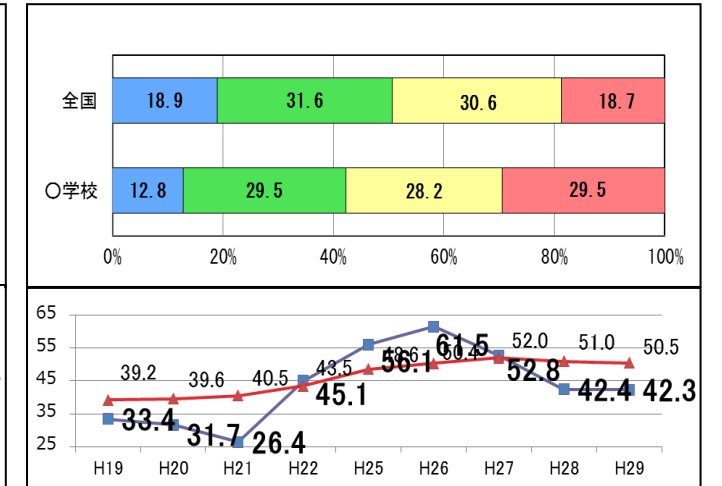


（考察）
ここ数年の朝読書の時間の取組みや学校図書室の本の充実などもあり、昼休みの図書室開放時にも多くの生徒が訪れる現状もあり、本や読書に接する時間が多くなったことが結果に表れたように思われます。特に、デジタル世代の子どもたちに読書好きが増えたことは大きな成果であると思います。

家で宿題をしている



学校の授業の復習をしている



（考察）
前述したように、家庭学習の時間（量）の確保も喫緊の課題ではありますが、家庭学習の内容・方法（質）も大きな課題であることがわかりました。グラフには表していませんが、「家で予習をしていますか」の問いに対して肯定的な回答（「している」「どちらかといえばしている」）の割合は本校が26.9%、全国が31.7%となっており、家庭学習の基本となる「宿題」や「予習」「復習」を行っている生徒の割合の低さが課題であり、全国と比べても低い結果となったことが気になります。まずは家庭学習の基本である「宿題」や「予習」「復習」の必要性や重要性について徹底し、習慣化できるよう保護者の皆さまの協力も得ながら、生徒自身への働きかけをしていくことが必要であると思われる結果となりました。

分析結果を踏まえて今後取り組んでいくこと

(1) 授業改善について

【国語科】

- ① 登場人物の心情や文章の要点等をまず独力で主体的に読み取らせた上で、各自の考えを深化・整理させる授業をめざします。
- ② 文章の読解のみに終わることなく、常に「自分の意見や考え」を求め、それを文章化する時間を極力確保していきます。
- ③ 文学的な文章に触れる機会を増やし、比喻等の文学的な表現を読みとる力をつけさせていきます。
- ④ 漢字のプリント等を通じて、正確な漢字を身につけさせます。また、作文など文章を書く機会を増やし、身につけた漢字の定着を図ります。

【数学科】

- ① 授業者自身が数学的用語を活用し、これまで以上に生徒への理解を図っていきます。
- ② 関数の領域について、計算による式での理解だけでなく、表やグラフから情報を正しく読み取る力を身につけさせる指導を行っていきます。
- ③ 論理的に筋道を立てて説明する力を培っていく必要があります。そのために、まず長文の文章問題を読むことに慣れさせ、情報を整理するという場面を多く設定していきます。また普段の授業においても、根拠を明確にさせて答えを導くように指導を行っていきます。

【他の教科】

- ① 主体的に考える場面・機会の設定と、充実した言語活動をより一層取り入れた活動や授業づくりに取り組んでいこうと考えています。
- ② 生徒に話し合わせたり発表させたりする機会は多くなってきていますが、「活動あって学びなし」にならないように、発問や課題の質を高めていく必要があります。生徒が「なぜだろう」「もっと知りたい」と考えるように、ポイントをしっかりとおさえた「学び合い」や、筋道を立てて発表できる力の育成をめざします。
- ③ 「めあて（目標）」と「振り返り」の明確化とともに、その内容の質を高めていく必要があります。特に、授業に臨む際に、生徒自らが本時の「めあて」を明確にしておくとともに、「振り返り」においては授業の中で生徒が振り返る時間を確保し、また家庭学習においても「振り返り」（復習）をする習慣がつくように働きかけていこうと考えています。

(2) 学習規律について

- ① チャイム着席と授業前の準備の徹底を図ります。
- ② 授業の始まりと終わりのあいさつをしっかりと行うよう徹底していきます。
- ③ 「学び合い」の際には、人の話をきちんと「聞く」「話す」のメリハリのある学習姿勢がとれるように働きかけていきます。
- ④ 生活習慣も含めた家庭学習の学習規律（家庭学習の仕方）も指導していきます。

(3) 家庭学習について

- ① 「学習の手引き」を活用し、学校だけでなく家庭と連携して、自学自習力、「学びに向かう力」の向上をめざします。
- ② 適切な家庭学習の課題を示し、家庭学習の習慣化を図るとともに、「基礎的・基本的」学力の定着を図る取組みを進めます。
- ③ 「自学自習プリント」の量と質を学年に応じて再度検討し、その徹底を図ります。
- ④ スマートフォンやゲームの使用率および使用時間と生活習慣などの改善についても、学校としてできることを考え、発信していきます。
- ⑤ 放課後の自学自習教室の利用をより一層奨励していきます。